

つなぐ



実践5 在外派遣の恩返し

- ① 中学生の海外派遣事業を生かす
還元システムの構築

1. はじめに

土田雄一教授（敬愛大学）より

国際社会で活躍する人材育成のために、「中学生の海外派遣事業」を実施する自治体は全国に散見される。派遣報告会等を通して還元する取組をしているが、効果は限定的である。そこで、A市では派遣中学生を小学校でゲストティーチャーとして活用する実践を試みたところ、小学生と中学生の双方に意欲向上につながる成果が得られた。その実践を生かし、「中学生の海外派遣事業」の体験を出身小学校で還元するシステムの構築をした。実施した学校の管理職からは効果的であり、小中連携のよい取組であると高く評価された。 ※発表当時は、教員養成開発センター長

1. はじめに

②あなたの海外派遣に挑戦したきっかけは何ですか。

※ 朱書きは、「人」から影響を受けたという記述

※ 朱書きの下線は、海外派遣に行った生徒から影響を受けたという記述

- ・英語が好きで、自分の語学力を確かめたいと思ったから。(2年 女子)
- ・英語力のスキルアップをしたいと思ったから。(3年 男子)
- ・私が小学生の時、先輩が発表したのを聞いたこと。(3年 女子)
- ・母がアメリカに一年間留学経験があると聞いて興味を持ったのと、ヨーロッパ方面に行ったことがなかったからです。(2年 女子)
- ・先輩に教えてもらい、興味をもち、挑戦しました。(2年 女子)
- ・2つあります。1つは、英語を上達させたかったので、英語をしゃべる状況があると、絶対に上達できると思ったからです。2つ目は、書道をやっていることもあり、日本の文化を伝える一人になりたかったからです。また、海外の文化も知りたくて、現地に行ってみて、「ドイツ」という国を知りたいと思ったからです。(2年 女子)
- ・ヨーロッパに興味があり、同年代の人たちと英語でコミュニケーションを試みたことから。(2年 女子)
- ・去年、同じ部活の先輩がドイツに行ってきて、とても新鮮に感じ、自分も行きたいと思ったからです。(2年 男子)

2. 実践

派遣中学生の希望調査

③あなたの経験を、出身の小学校や近隣の小学校で発表することができるとしたら、挑戦してみたいと思いますか。(去年は、希望者全員が実施しました。)

挑戦したいと思う。 15名 稲荷木小(2名)、鶴指小、塩焼小、大野小、市川小、国府台小、中山小、北方小、国分小、宮久保小、曾谷小、大柏小、南行徳小、富美浜小

挑戦したいと思わない。 1名 宮田小(緊張してしまうので、あまり思いません)

2. 実践

希望調査の集計結果

アンケートを集計して

お忙しい中、アンケートの提出にご協力いただき、ありがとうございました。

寄せられた回答を見ると、海外派遣に挑戦するきっかけは、人からの影響がとても大きいようです。16人中10名がそう回答しています。更に、「海外派遣生からの影響」と回答した生徒が4名おり、うち2名は兄・姉が派遣生だったことに影響を受けているとの回答でした。出発前にお願いしていたこともあり、今年も16名中15名が小学校でのゲストティーチャーを希望すると回答してくれました。今後、該当の小学校と連絡をとり、何とか希望が実現できるように支援していきたいと思っています。中学校の先生方・小学校の先生方ともに多大なるご協力があって成り立っているこの取組ですが、ぜひ、多くの児童生徒にとって実り多いものにしていきたいと思っています。

2. 実践

実際の授業の様子（報告）

6年：総合的な学習の時間（1）時間・・・11月22日

内容 ○パワーポイントを使用し、ドイツでの生活、学校の様子、文化をクイズを織り交ぜ
パワーポイントでの紹介は良かった。

感想 クイズ形式を織り交ぜてドイツのを紹介するので、子どもたちが興味深く聞き入っていた。児童の感想から、「ドイツに行きたい」、「派遣事業に参加したい」と思う児童がいた。また、外国に興味を持った児童多くいたので、国際理解教育の推進になったと思う。

6年：特別活動（1）時間・・・11月27日

内容 ・ドイツでの活動内容、ドイツと日本の生活習慣・学校生活の比較

感想 ・パワーポイントを活用し、写真を提示して発表を行っていたため、子どもたちも行ったことのないドイツの生活等について具体的に理解をすることができた。
・ドイツには、日本と異なる生活習慣が存在することを理解することができた。

2. 実践

授業後 中学生の感想 1 (回答者9名)

1. ゲストティーチャーになってみてどうでしたか。以下の文のうち、あてはまるもの全てに○をしてください。

下記の質問への回答者9名

(事務局の手違いで、異なった感想用紙を配付したため、1名は感想のみ)

(9) ゲストティーチャーの体験は、自分にとってためになった。

(9) 小学校に行って交流ができて楽しかった。

(9) 小学生は、とても熱心に聴いてくれた。

(9) 自分がゲストティーチャーに希望してよかったと思う。

(7) 自分がゲストティーチャーになることは、小学生にとっても良かったと思う。

2. 実践

授業後 中学生の感想 2

- ・小学生が思っていたよりも熱心に聴いてくれていて、とてもうしれかったです。とくにクイズのところは、みんな楽しそうにしている良かったです。ゲストティーチャーの体験は、緊張したけど、先生方のサポートのおかげで成功したし、自分にとってもとてもためになりました。今回の発表を機に、小学生が少しでも他国に興味をもってくれたらうれしいです。ありがとうございました。（上記回答 ○5 / 5）
- ・授業が始まる前は、「ちゃんと話を聞いてくれるのかな」「質問が無かったらどうしよう」など不安がとてもありました。しかし、授業が始まると小学生はとても熱心にメモをとりながら聞いてくれていて、ホッとしました。僕は、なるべく小学生の方を見るために、原稿はわざと作らないでやりました。だから、小学生の顔の表情が見られてよかったです。今回の経験をいかして、学校生活にも役立てていきたいです。（上記回答 ○5 / 5）

3. 成果は3つ。

- (1) 派遣生の小学校での活用は**効果がある**
- (2) **小・中学校が連携**した教育活動ができた
- (3) **報告活動の広がり**と定着

3. 成果

令和2年3月吉日

各校長 様
各教頭 様


市川市国際理解教育部会
部会長

お 礼

この度は、中学生ドイツ派遣に参加した生徒がゲストティーチャーとなる取組に際して、ご配慮いただきまして、ありがとうございました。学校間の日程の調整や保護者への連絡等様々な面へのご支援があつて、この取組が実現に至ったことと存じ、感謝申し上げます。

この実践は、小学校と中学校をつなぐという意味において、とても貴重なことだと感じています。後に続く後輩たちの「良い学びの場」となりました。ゲストティーチャーを経験した生徒にとっても、話を聴いた児童にとっても、今回の体験をぜひ、今後の学習や生活に生かしてほしいと思います。

本取組を冊子にまとめました。本来でしたら、印刷したものをお届けするのが良いのですが、データの送付にて替えさせていただきます。関係の先生方にもお知らせください。

 > PC > 市内共有 (F) > 00_市内共有 > H31年度 > 定例研 > 国際理解教育部会 > H31年度 >

今後とも、どうぞ宜しくお願いします。

3. 成果 A市校長会アンケートより

6. 上記「5」でAと回答した方に伺います。この取り組みは、児童生徒が国際性を高めていくうえで、効果があったと感じていますか。

- A (3・3) 非常に効果がある。
- B (7・3) ある程度効果がある。
- C (0・0) あまり効果がない。
- D (0・0) 全く効果がない。

7. 上記「5」でAと回答した方に伺います。効果があると感じたのは、右の表のどの項目ですか。(小・中義)

8. 上記「5」のような取り組みは、一連の取り組みを進めるなかで「小中連携」が図られる場面が見られました。この取り組みは、小学校と中学校をつなぐうえで効果のある取り組みにだと思いませんか

- A (18・10) 小・中をつなぐうえで、効果がある。
- B (18・5) ある程度効果がある。
- C (1・0) あまり効果がない。
- D (0・0) 全く効果がない。

国際理解教育の3つの観点 (新学習指導要領に対応)	該当 ○
知識	
①国際友好・平和	1・5
②文化的多様性と共通性	1・5
③相互依存	
④正義・公共性	
⑤共生	3・2
⑥持続可能性	
⑦民主主義	
思考力・判断力・表現力	
⑧批判的な思考力	
⑨課題解決能力	1・3
⑩想像力	1・1
⑪コミュニケーション能力	7・6
学びに向かう力・人間性等	
⑫人権意識	3・1
⑬寛容・共感	1・1
⑭協力・協調性	2・2
⑮誇り・自尊心	2・2
⑯社会・地域への参加	2・1
⑰グローバルな意識	7・5


3. 成果

実践報告書（小学校が記載）

中学生の海外派遣を生かす
還元システムの構築


国際理解教育 実践報告書

第一中一市川小

異文化・異なる言語に接した経験を伝えたこと等についてまとめましょう。 それは、以下の国際理解教育の目標項目のどれに当たるか考えてみましょう。	
国際理解教育の目標：多文化共生社会の担い手の育成(グローバル人材の育成)	
国際理解教育の3つの観点 (新学習指導要領に対応)	該当
知識	取組(授業)の題材名 海外に派遣された中学生をゲストティーチャーとする取組
①国際友好・平和	上記を実践する中で、気づいたこと(具体的に) その1 今回の取組に当てはまる目標項目に○をしましょう。
②文化的多様性と共通性	○ ・中学生は実際の経験を通して、日本との違いに気づき、それがなぜそうなのかということをよく話していた。(天井のファンの話、暖炉の話、ペットボトルのデポジットの話)日本の虫よけが効かず、現地のやり方を試していたことなどはとても興味深かった。「郷に入っては郷に従え」ということを体験できていて、小学生も現地のやり方に驚いていた。
③相互依存	
④正義・公共性	
⑤共生	
⑥持続可能性	○
⑦民主主義	
思考力・判断力・表現力	・終わった後、中学生は満足そうだった。自分の体験を真剣に聞いてくれて、たくさん質問もでて、嬉しかったということである。自分の体験を聞いて、ドイツに興味を持ってくれる人がいることを願っていた。この活動は、国際理解を深める活動につながる。
⑧批判的な思考力	
⑨課題解決能力	その2 上記の取組を通して、児童生徒に気づかせたいこと
⑩想像力	○ について、具体的な言葉にしてみましょう。
⑪コミュニケーション能力	○ ・小学生から「海外に行って便利だったものはありますか。」の質問に「英語が便利だった。」という回答をしていた。この表現は英語はコミュニケーションの道具の一つで、一番大事なことは、伝えようとする気持ちと話していた。具体的に英語を使う場面がわかることで、小学校外語活動のモチベーションにつながると思った。
学びに向かう力・人間性等	・小学生の反応が良かった内容は、日本と比較できる、想像しやすい「異文化」であった。自分の周りにもあるものと違う、それで生活している人もいて、楽しみながら理解させることができたと思う。いろいろな文化を楽しんだり、受け入れたりするのはどうだろうか、というのを楽しんで学んでほしい。
⑫人権意識	
⑬寛容・共感	○
⑭協力・協調性	
⑮誇り・自尊心	
⑯社会・地域への参加	
⑰グローバルな意識	○
対象	小学校 中学校・義務教育学校・特別支援学校・他() 全校・学年・クラス・ペア学年・その他()
扱い	教科()・総合的な学習の時間・道徳・学級活動・その他()
時間	単元として() 時間程度)・1時間・5~10分・その他()
めあて	気づかせたい目標項目：(② ⑥ ⑩ ⑪ ⑬ ⑰)
教材	人()・写真・書籍・物()・その他()
授業等の様子	<p>今まで、何度かドイツ派遣の報告会を見てきたが、まったく同じ話をする生徒がいないので、いろいろな見方を知ることができるので今回も楽しめた。今日の生徒は、今までの生徒にない着眼点を持っていて、小学生もとても楽しそうであった。質問もたくさん出て、中学生もしっかり答えられていた。久しぶりに会った担任の先生に成長を認められとても満足そうに帰っていった。スポーツを通じて、児童の保護者とドイツの話をする児童がいた。家でも、スポーツを通して他の国の話をしていくことはいいことだと思った。それが本当なのか、自分の目で確かめられるようになってほしい。</p> 

国際理解教育 実践報告書

第八中一橋指小

異文化・異なる言語に接した経験を伝えたこと等についてまとめましょう。 それは、以下の国際理解教育の目標項目のどれに当たるか考えてみましょう。	
国際理解教育の目標：多文化共生社会の担い手の育成(グローバル人材の育成)	
国際理解教育の3つの観点 (新学習指導要領に対応)	該当
知識	取組(授業)の題材名 海外に派遣された中学生をゲストティーチャーとする取組
①国際友好・平和	上記を実践する中で、気づいたこと(具体的に) その1 今回の取組に当てはまる目標項目に○をしましょう。
②文化的多様性と共通性	○
③相互依存	
④正義・公共性	
⑤共生	
⑥持続可能性	
⑦民主主義	
思考力・判断力・表現力	日本とドイツの違い、市川とローゼンハイムの違いから、世界には様々な文化があることを知った。また、その中からも同世代の子どもがどのような過ごしているのかも知ることができ、そこから共通性も見出すことができていた。
⑧批判的な思考力	
⑨課題解決能力	その2 上記の取組を通して、児童生徒に気づかせたいこと
⑩想像力	○ について、具体的な言葉にしてみましょう。
⑪コミュニケーション能力	○ ・国が違うと、気候や文化や食事などの違いが見られること ・ドイツ語を話すことができなくても、コミュニケーションをとることはできるということ ・ドイツの生徒も日本に来て、日本の文化を体験し、相互の文化を見合っていること
学びに向かう力・人間性等	
⑫人権意識	
⑬寛容・共感	
⑭協力・協調性	
⑮誇り・自尊心	
⑯社会・地域への参加	
⑰グローバルな意識	○
実施した実践についてお知らせください。	
対象	小学校 中学校・義務教育学校・特別支援学校・他() 全校 学年 クラス・ペア学年・その他()
扱い	教科() 総合的な学習の時間 道徳・学級活動・その他()
時間	単元として() 時間程度)・1時間 5~10分・その他()
めあて	気づかせたい目標項目：(② ⑩ ⑰)
教材	人() 写真 書籍・物()・その他()
授業等の様子	<p>中学生がパワーポイントを使いドイツでの様子を説明していく流れであった。本人も自身が6年生だった頃にこの発表を聞いて派遣に参加したいと思った。そのため、極力ドイツの生活の様子や、ホストシスターを受け入れてからの様子なども取り入れていった。また、45分間一方的に話をしていくと飽きてしまうため、クイズをいれるなど、興味を持ってもらえるような内容であった。</p> 

3. 成果

市内共有フォルダのデータ

- 資料①派遣生への希望調査
- 資料②受け入れ小学校からの状況報告
- 資料③派遣中学生保護者文書
- 資料④実践報告書
- 資料⑤実践校ふりかえり
- 資料⑥派遣中学生ふりかえり・アンケート

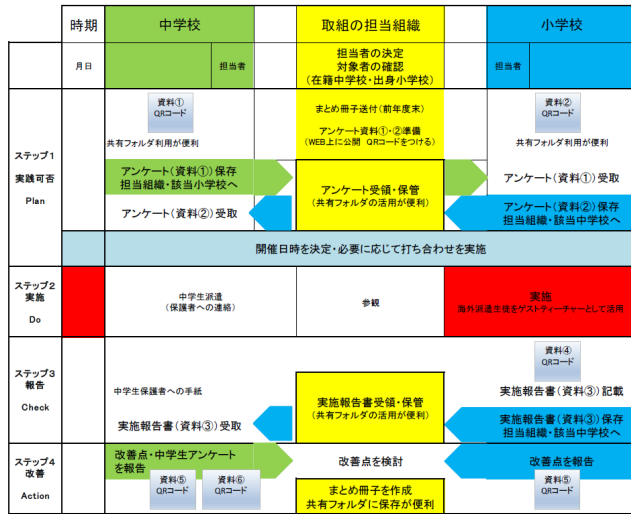
4. 課題は2つ。

- (1) 連絡調整の煩雑さと
運営システムの構築について
- (2) マッチングの問題

4. 課題

海外派遣生徒をゲストティーチャーとして活用する取組(システム)

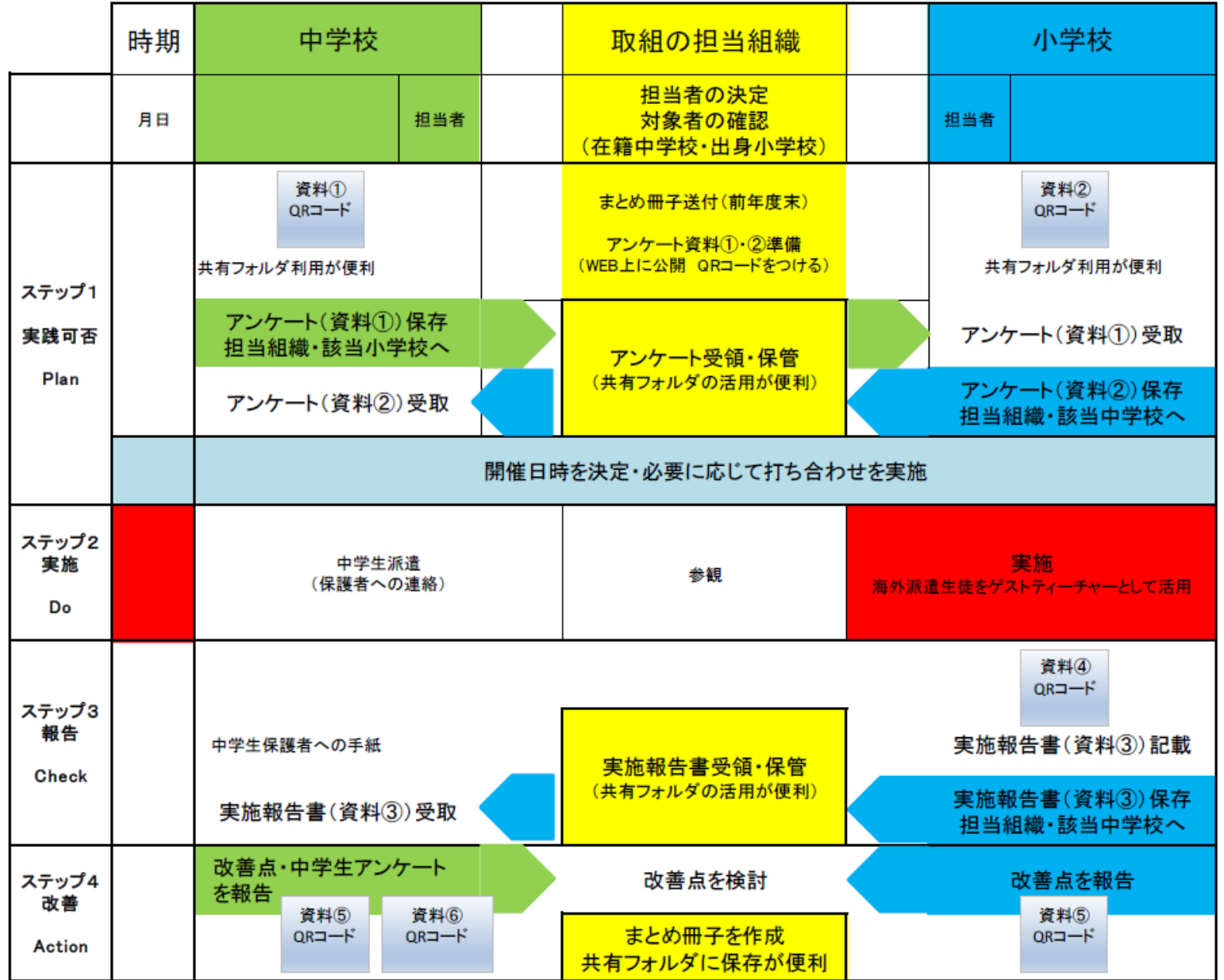
海外派遣生徒をゲストティーチャーとして活用する取組(システム)



基本台帳()年 和置表示

中学校名	中学校番	氏名(ふりがな)	性別	学年	出身小	小中学校番	アソシエイトの所属	実施日	報告書送付
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									

これらの文書を1つのエクセルファイルにまとめました。
中学生等の海外派遣事業は、多くの自治体で行っている
ので、ぜひ、このファイルを活用してください。
海外交流事業に参加した生徒が小学校にゲストティー
チャーとして赴くことで、新しい学びを作り上げられます。
中学生・小学生とともに教職員にとっても達成感・満足感
の高い取組となることでしょう。



5. 総合考察

土田雄一教授（敬愛大学）より

- ▶ 中学生の海外派遣制度で学んだ成果を小学校（母校）のゲストティーチャーとして還元するシステムは画期的であり、効果的である。どの自治体でも実現可能な取組であり、費用もかからない。その運営方法（システム）を他の自治体で共有し、自らの自治体に応じたカスタマイズをすることで「海外派遣事業」がさらに充実した事業となることが本実践研究によって示唆されている。そして、その核となるのは、本実践では「国際理解教育部会」であるが、地域の「校長会」の理解と協力が大きいと考える。A市の実践では、広げる際に校長会の協力を得ていることやこれらにつなげるために「校長会へのアンケート調査（学校の国際化について）」を実施したところにも大きな意味をもつ。そして、実際に運用する核となる人物も重要である。本実践では第一筆者が核となったが、その人物が一人ではなく、複数で組織して運営できるようにするとよい。「小・中連携の教育実践」は「副産物」ではあったが、このような双方に効果のある実践は小・中学校で受入れやすい。そして、より負担が少ない簡単なシステムにすることで継続しやすくなる。自治体全体での組織も必要だが、中学校区を中心とした実践であるため、中学校区の「教務主任研修」や「教頭会」で実務をするのはどうか。ぜひ検討していただきたい。

5. 総合考察

土田雄一教授（敬愛大学）より

- ▶ 最後に「国際理解教育」としての成果について検討したい。国際理解教育の3つの視点「知識」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう人間性等」と17の項目への達成についてである。管理職の評価は「コミュニケーション力」「グローバルな意識」「国際友好・平和」「文化的多様性と共通性」等が多かったが、実施している小学校教員や中学校教員の評価はどうか。
- ▶ さらに派遣中学生はどんな力が身についたと考えるのか。「実践報告書」（図1）の分析もしたい。話を聞いた小学生はどうとらえたのか。学びの自己評価は重要である。国際理解教育やESDが目指すのは知識理解にとどまらない「国際社会の一員として主体的に行動する人材の育成」である。
- ▶ この実践が一人でも多くの児童生徒にさらなる学びのきっかけと行動を起こすことにつながることを期待する。